

 祝祭日には国旗を掲げましょう。

大阪天満宮社報 第78号

てんまつんじん



7月25日 鉾流し神事

涼風進上

令和二年 秋涼

宮司挨拶 コロナ禍の中で……………	2 頁
新型コロナウイルス対策と天神祭……………	3 頁
今年の天神祭……………	4 頁
名誉宮司回顧録④……………	6 頁
天満宮会館リニューアル……………	8 頁
広報室の発足……………	12 頁

コロナ禍のなかで

大阪天満宮宮司 寺井種治

先ず以て、皇室の弥栄と氏子崇敬者の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます

新型コロナウイルスが世界中で猛威をふるい私たちの社会生活に多大な影響を及ぼしています。このウイルスにより様々な形で被害を受けられた方々に心からお見舞いを申しあげ、またこれに対処している多くの医療従事者の皆様の大変な御尽力に敬意を表する次第です。私たち神職は毎日この疫病退散、ウイルスの終息を大前で心を込めて祈っております。

そして今年の天神祭はまだ梅雨が明けず、本宮である七月二十五日は雨模様の中斎行されました。屋外で行う鉾流神事直前に雨は止み無事行う事が出来ましたが、例年のような暑さではなくまさに菅公の御心を表しているような天候でありました。ウイルス感染拡大防止の為、陸船渡御・奉納花火などの神賑行事はすべて中止となり宵宮祭・鉾流神事・本

宮祭が代表者のみ参列する形となり行われました。誠に残念で宮司として御祭神に大変申し訳ないと思っております。

天神信仰自体が平安時代に天変地異や疫病退散を祈願した事に始まっていますし、天神祭は夏枯れを払拭し、罪穢れを祓う祭であります。今年の天神祭こそしっかりと神事を執り行いこれを多くの方々に知ってもらい又共に祈りを捧げていただきたく、本宮祭をインターネットを通じてライブ配信をさせていただきました。今出来る事は神社から神事の模様を発信する事で天神祭の核の部分を見ていただき画面を通じて疫病退散と一緒に祈る事だと思いました。大変多くの反響があり、これからの神社の在り方を模索する上で生かして行きたいと思っています。

そして本年の天神祭でも多くの氏子の皆様から暖かいお言葉とお供えや協賛金を頂戴致しました。渡御が無いにも関わらず「宮司さん、お渡

りはないけど天神祭の初穂料を納めてもいいですか」との声や「天神祭の火を消さないで下さい」など様々な声を聞かせていただき、改めてこの祭が本宮に多くの方達に支えられ守られている事を実感致しました。

天神祭の渡御が中止となった一番新しい記録は昭和四十九年でそれは石油ショックによる不況がもたらしたものでした。その際に当時の大阪商工会議所会頭で天神祭渡行事保存協賛会佐伯勇会長が「天神祭が出来ないというのは大阪の恥や」とおっしゃり、手拭いに当宮境内にある俳人の北山河氏の詠んだ「船渡御へ見せて浪速の土性骨」という句を染め抜き、自ら先頭に立つて企業を廻られ協賛金を募り翌年見事に天神祭は復活したという逸話があります。

また江戸時代に当宮は火災で七回社殿を失っておりますが、その度に氏子崇敬者の皆様のお力によって再建されています。「天神さんの為やったら」「天神さんが言うんやったら」（天神さんというのは私たちの神社という意味です）という事も良く耳にします。それほど大阪天満宮は氏神様であり地域と共に氏子の皆様と共に存在している神社であるという事を実感し本宮に有り難く嬉しく思

います。今私たちに出来る事は何なのか、何をしなければならぬのかという事を常に考え行動して行きたいと考えています。

このコロナ禍で企業や商売をされている方など大変多くの方々が経済的に影響を受け苦しんでいます。子供達や学生も思うように通学する事が出来ず社会活動は不安定さが日々増しています。私たち日本人は古来より礼儀正しく勤勉で誠実な民族だと言われています。世界中でコロナが拡大し混乱している中でも都市閉鎖やロックダウンをしなくてもそれぞれが自然と自粛して秩序が保たれている事はまさに日本人の民族性を示していると感じます。それぞれが相手を思いやる。これこそが今大切な事だと思います。そして今の辛い日常を悲しむだけでは無く前を向いて感謝する心を忘れないようにしたいと思います。道真公の詠まれた「海ならずたたへる水の底までも清き心は月ぞてらさむ」という詩のようにどのような時でも清らかな心、誠のこころを持つてこの国難を乗り越えて行きたいものです。

大阪天満宮は七年後の令和九年には二十五年ごとの式年である「菅原道真公御神退尊千百二十五年祭」を

▼渡御行事の中止

これらの渡御行事等を中止することは誠に断腸の思いではありましたが、政府による緊急事態宣言が発令され、外出自粛要請や休業要請などの全国的な感染防止対策が進められた四月末の時点では、全国で一万六千人余、大阪府で千七百余人余の感染者が確認されるなど、感染拡大が深刻な状況にあることを鑑み、天神祭の渡御行事に参加していただく講員や氏子崇敬者、地元商店街、そして天神祭に参集される多くの市民の命と健康を第一に考えることが肝要と判断したものです。

毎年百三十万人もが群参される神賑諸行事を実施すれば、多人数の「密集・密接の状態」を招き、感染を拡大させてしまう危険性が極めて高いと考えられます。それは「疫病の退散・人々の安寧」を祈念するという「天神祭」の創始以来の趣旨に悖ることもなりますから、渡御行事や奉納花火などの神賑行事を「中止する」ことは誠に止むを得ないことであると判断し、神事諸祭儀を次頁の通りに斎行致しました。

新型コロナウイルス対策

天神祭

▼境内施設の対策

昨年十一月に発生した新型コロナウイルス感染症が世界的規模に拡大し、わが国においても、都市部の感染者が急激に増加、大阪府下でも三月三十一日時点の感染者は二百四十四名となり、その後も感染の拡大が深刻な状態となりました。

そのような中で、本年七月に開催予定だった東京オリンピック・パラリンピッ



▼天神祭渡御行事保存協賛会
各地の祭礼を含む諸行事も相次いで延期または中止の措置がなされる

また、授与所前に飛沫防止パネルを設置し、手水舎では柄杓を撤去するとともに、手指消毒液を置いて手洗いと併用するようにしました。

当宮としましては、社頭授与所の奉仕時間や本殿での祈祷受付時間を短縮し、職員の出勤数を縮小し、さらに奉務時間も短縮し、交通機関が混雑する時間帯を避けて出勤退社するなど調整しました。

クも、一年の延期が決定され、四月七日には政府による緊急事態宣言が発令され、わが国の社会は、日常生活の全般に亘る大規模な自粛態勢となりました。

なか、七月二十四日・二十五日に予定されていた天神祭についても、陸渡御・船渡御・奉納花火等の天神祭渡御行事保存協賛会の主催に係る神賑諸行事を実施するかどうか火急の課題となりました。

そこで、協賛会の「常務会」において、大阪天満宮・講社連合会・氏子総代・大阪府知事・警察当局・商工会議所等の関係機関の意見等も聴取し、検討の結果、速やかに臨時委員総会を招集の上、最終的な決議を得ることが必要と判断されました。そして四月十三日に開催の臨時委員総会で審議を経て本年度の天神祭は、陸渡御・船渡御・奉納花火等の神賑諸行事は中止し、神事諸祭儀のみ行うことにする旨、決議されたのです。

毎年百三十万人もが群参される神賑諸行事を実施すれば、多人数の「密集・密接の状態」を招き、感染を拡大させてしまう危険性が極めて高いと考えられます。

それは「疫病の退散・人々の安寧」を祈念するという「天神祭」の創始以来の趣旨に悖ることもなりますから、渡御行事や奉納花火などの神賑行事を「中止する」ことは誠に止むを得ないことであると判断し、神事諸祭儀を次頁の通りに斎行致しました。

今年の天神祭

● 宵宮祭

七月二十四日午前十時

宮司以下神職七名、巫女二名、
楽師三名（関西雅楽松風会）。
参列者三名。

※神饌七台に続いて、御鉾（素木、長さ二尺五寸）を大前に奉献します。



● 鉾流神事

七月二十五日午前十時

宮司以下神職五名、巫女二名、御鉾司、

楽師三名（関西雅楽松風会）。
参列者二十名。



※例年は夏越の祓いを中心となる儀式次第ですが、本年は悪疫退散の祝詞を加えて奏上することとしました。

鉾流しには神童が奉仕していましたが、本年は御鉾司が祭員とともに斎船に乗って鉾を流しました。

鉾流し歌（菅原道真公御歌）

海ならずたたへる水の底までも

清き心は月ぞてらすむ

● 本宮祭並悪疫退散祈願祭

七月二十五日午後二時

宮司以下神職八名、御鍵司、巫女四名、
楽師三名（関西雅楽松風会）奉仕。
参列者二十三名。



● 行宮本宮祭

七月二十五日午後四時

禰宜以下神職三名、巫女一名。

● 天神祭のライブ配信

ライブ配信当日は約四千人の視聴者にご覧いただき、録画配信では約一万三千五百人に約三万回の再生視聴を頂くことができました。その後のチャンネル登録者は二千四百人となり、予想以上の反響に驚いております。

事前から各マスコミに幾度となく取り上げていただけたのも、この数字に大きく影響したのだらうと考えています。

当宮としても三つのSNS、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムを有効に活用したりホームページへ掲載したりして、あらゆる広報手段を駆使して事前広報にも注力したこともこの結果につながったのではないかと推察しています。

制作現場においてはできるだけ例年の祭儀ではご覧にならない部分もあえて詳細にお伝えできるように工夫した構成としました。本殿の奥や神職の手元にいたるまでお見せするとなれば納得のいくものでなければいけないと、宮司の強い信念のもと祭員となった神職とスタッフは限られた日数のなか幾度も協議調整を行いました。が、当宮としての意見を十分に尊重していただけたこともあつて順調に円滑に準備できましたことは大変有難く感謝しております。殊に視聴

者の皆様とご一緒にお祈りする時間を共有できたこと、大阪締めの手打ち式ができましたことは画期的な配信ではなかったかと自負するところです。

願わくはこの大きな祈りをご祭神には御嘉納あらせられ、この事態が早期終熄されんことを請い祈り奉るばかりであります。



ライブ配信準備日程

五月三十一日	配信準備開始
六月 七日	構成会議
十九日	制作会議
七月 二十五日	公式チャンネル開設
三日	台本合わせ進行打合
三日	ライブ配信告知映像配信
九日	配信試験、撮影機材選定
四日	天神祭紹介映像配信
十三日	神職祭式研修打合
十五日	習礼、全体リハーサル
二十一日	視聴者拝礼の作法説明映像配信



● 行宮宵宮祭

七月二十四日午後二時

宮司以下神職三名、巫女一名。
氏子総代一名、奉賛会三十名余。

※ライブ配信につきましては、五月初旬に宮司の発案によって企画が開始し、広報室が中心となつて計画を進めました。映像制作は内田写真社、配信技術はパソナ・パナソニックビジネスサービス様、音声は株式会社エイ・ブイ・シー様にご協力いただきました。特に甲子社エイ・ブイ・シー様は例年の諸祭儀三日間の音響を御奉仕頂いておりますが、今年のこの計画にも例年同様に御奉仕頂きました。

来し方をふりかえって (四)

大阪天満宮名誉宮司 寺井種伯

三月十三日の「大阪大空襲」

昭和二十年（一九四五）三月十三日深夜から翌日未明にかけての「大阪大空襲」ですね。私は小学五年生でした。大阪大空襲の時、通っていた坂本国民学校（滋賀県）の空までも真っ黒になって、おてんとさんが黒なつた、とみんなびっくりして言い合いました。ともかく教室の電気をつけないと授業ができないほどでした。

西区、天王寺区、南区と東区（現中央区）に被害が多かったでしたね。その時は、大阪天満宮のある北区は免れたようですね。

六月十五日の空襲

それから三ヶ月後の六月十五日、この時は北区も相当やられました（次頁、『社務日誌』六月十五日参照）。

当時は、今みたいに簡単に、天満（当宮周辺地域）の情況が判らない訳ですよ。天満宮には祖父（種臣）と祖母（喜久）がおりましたから心配し

したね。ともかく、「大阪がえらいこっちゃ」と言うので、それから三日後の六月十八日、父（種長・当時日吉大社宮司）と二人で、トラックに乗ったり、電車に乗ったりして、坂本から大津へ、それから京都を経て、大阪駅にたどり着いたんです。

その頃、兄（種茂）は、國學院大學専門部（東京）に在学しておりましたから、あとの男の子は、ということので、次男の私が連れて行かれたんですよ。

大阪駅は今の場所とおなじです。そこから大阪天満宮の方（南東）を見た父が「あつ、天満宮がある！」と。大阪駅のホームから見ると、ポツンポツンと土蔵だけが残っていて、家は全部ないんです。その先に大阪天満宮の御本社があつて、その向こうには大阪城があつたんです。すごい光景でした。

父がねえ、その場に、ひざまづいて、何回も何回も「ああ、ありがたい、ありがたい」と言つたことを覚えています。

それから大阪駅を出て、天満宮を目指してひたすら歩きました。町は一面焼け野が原、まだくすぽつているところもありました。何も無くつて、グチャグチャになっていました。

ですから天満宮の御本社がものすごく大きく見えました。こんな大きな建物が全然焼けもしないで建つていることが、不思議に思いましたね。大阪の町（旧大阪三郷）の神社で焼け残つたのは大阪天満宮だけでした。

天満宮におりました祖父と祖母は幸い無事でした。以前から祖父は空襲の度に、境内に造つていた防空壕には入らずに、御本殿で大祓を奉唱していました。

空襲の爪痕

天満宮の境内にも、焼夷弾の不発弾がゴロゴロ落ちてました。中庭にも落ちていて「触つたらいかん」と言われましたね。

建物は免れましたけど、ひとつだけ、土蔵（東庫）の中で焼夷弾が爆発しました。ところが、蔵だから、中だけ燃えたんです。その蔵は、筥などの掃除道具が入つていた雑品庫でした。焼夷弾は蔵の屋根を突き抜けて、中でバーンと破裂したんです。ところが土蔵つてたいしたもんで

ね。中だけで外に火は出なかったですね。被害いうたらそれだけでした。ところがね、天満宮の西側の天神橋筋商店街（旧十丁目筋）と、東側、南側の町々も全部焼けました。天満宮の北側にある亀の池や、その周辺は残りましたけれど。大正年間に祖父種臣が、「絶対に防火堀を造らな

終戦の日

昭和二十年八月十五日の朝、父が「今日お昼に玉音放送があるから、謹んで承らんといかん」ということで家族が家（日吉大社職舎）に集まりました。放送が始まりますと、父親が泣き出しましてね。「くつくつ」と。私は「えっ？」と思って。最初はなんでかよくわからなかったんです。「戦争が終わった」と父親が言いました。「えっ、終わったってどういうこと?」。戦争に負けるなんていうようなことは、およそ考えられないことでした。「終わった、つて?」。終わったってどういうこと。なんか理解できなかったんです。それで暫くすると段々と「負けたんや、戦争が終わったんや」と理解できました。放送が終わると父親はすぐそ

のまま御宮（日吉大社）へ行きました。

私は、前から、日吉大社の職舎の割合になだらかな屋根に、よく登つたりしてたんです。八月十五日の日も、かなり暑かつたので、瓦も熱かつた筈ですが、風に触れに行つたんでしょ

うか、ともかく屋根に上がつて、大の字になった、そういう記憶がありますね。何を思ったのか、何を考えたのか、内容は全然覚えてい

ないですけれども。

この日、八月十五日は、ちょうど六年生の夏休み中で、私の誕生日でもあります。

（聞き手 文化研究所 近江・宗石）

昭和二十年『社務日誌』より
当宮空襲の記録 抜粋

三月十四日、水、曇

午前零時ヨリ全三時半マデ主トシテ



昭和二十年八月末、大阪の街の惨状
谷町六丁目付近より大阪城を望む。左手は大阪府庁舎
写真・解説『大阪府神社庁五十年史』より



大阪駅を前方に一面の焼野原にポツリと土蔵が……。人影がちらほら焼けただれたトラックの群れもわびしい、数ヶ月後はここに「やみ市」が群集することとなる。 写真・解説『大阪府神社庁五十年史』より

大阪市二敵機ノ大編隊ノ波状攻撃ヲ受ケ、西区・南区・天王寺区・東区方面被害多ク、火災終日空ニ映ユ、本殿以下御安泰
三月十五日、木、晴
行宮（西区）全焼、御神体は壕に奉安中
三月十六日、金、晴
行宮ノ御神体ヲ本社ニ奉遷
六月十五日、金、雨
午前八時半頃空襲警報発令、敵機約二百機、主トシテ大阪上空ニ来襲。

本殿東詰・梅花殿・参集所等ニ焼夷彈落下セシモ初期防火ニ成功。菅南警防団、天満警察署員等応援極力鎮火ニ努ム。十六日午前零時、東庫ヨリ発火、消防署員、隣接氏子ノ協力ノ下職員消火ニ努メシモ東庫全焼、払曉鎮火、類焼ヲ辛ウジテ免ル
六月十六日、土、晴
堀川警防団々長以下、午前中来宮、東庫の余燼消火ニ努力セラル。午后四時過、再度来宮、全前孰れも職員一同敢闘全力を傾け、事務所延焼に努む

六月十七日、日、晴

中部軍兵務部員塚本大尉、本殿東詰屋根ニ残存セル焼夷彈、彈骸、並ニ境内ニ散在セル不発焼夷彈ノ処分方法ニ就キ、秋山中将ノ命ニヨリ午後三時半来宮。エレクトロン焼夷彈ハ地下一尺以上ノ深度ニ埋没、又ハ池沼等ニ投入シテ宜敷旨指示アリ。東蔵（庫）ニ余燼冷メザルタメ午前中職員一同注水

六月十八日、月、晴

寺井宮司（種長 来宮（種伯少年同行）。東蔵余燼に時々注水。事務室南ノ壁、午後三時頃突如傾潰
七月廿五日（天神祭本宮）、水、晴
前日全様頻襲ノ為、頗る閑散、隔世の感無量なり
八月十五日、水、晴

正午ラヂオにて玉音の録音を拝す。四国宣言を受諾し給ふ旨なり、血涙萬斛萬感交々至る、今は只恐き聖旨に副ひ奉るのみ、神前に参拝、只管国体護持聖寿萬歳を祈願す

天満宮会館からのお知らせ

総支配人 沖 圭司

天満宮会館は、去る五月一日から株式会社クラウドディアホールディングスと委託運営を開始致しました。今後は婚礼サロンの業務のみならず、料理婚礼当日のスタッフも全て同社が担当致します。お客様の多岐に渡るご要望にお応えし、満足して頂ける式宴を催行するには、経験豊富なスタッフが不可欠です。

同社は、扇町でも結婚式場を展開しておりますが評判も良く、今回の



フロント付近



ロビー



参集殿



寿の間

大阪天満宮献詠 風月社 令和二年上半期香歌

春小袖はつよそほひのつつましさ

点前する娘のまはゆさまさり

幹事 佐野 秀子

人として歩みたる道幾度か

転ひ選ひて今となりぬる

幹事 松村 暁二

花も実も楽しまんとて夫植えし

梅の木五十年白加賀ひらく

東大阪 中山 里江

おとめ子は初の装ひ振り袖に

二十歳の夢を抱きあゆみぬ

神戸 鈴木 敬子

梅咲きて天満みやしろ香りみち

若者いのる絵馬のかさなり

大阪 金生 久夫

雛人形孫に贈りて足軽き
春風すつと肩なててゆく
大阪 大北 滋保

元旦に初装ひしてよろこひに
産着で眠る初孫いたく
大阪 中瀬 央子

初装ひ玉砂利ふみつ初詣で
よき年ねかふ天満の杜に
大阪 竹久 英子

春の氣を受けほのほのと
梅一輪一輪の香のたちそむる知る
大阪 家治 綾子

雪被き初装せる金剛の
山頂ふめは樹氷きらめく
東大阪 乾 恵子

青空を大きく泳ぐ鯉のほり
子とはとひ跳ぬる諸手をあけて
東大阪 北岡由紀子

弥生たち桃にかされるひなまつり
愛子ともにのみし白酒
大阪 伊藤 凉子

五月晴れくもる心も災いも
祓ひたまへといのりあふかる
八尾 南口一二美

止まぬ雨なしとそ今朝の五月晴
疫病みの空はたた青くして
福宜 柳野 等

天神信仰と疫病・飢饉

江戸時代には、この世で怖いものを「地震・雷・火事・親父」と言い習わしていました。この「親父」については、台風を意味する「大山嵐（おおやまじ）」が訛ったもののようですが、それはさておき、日本史を振り返ると、より大きな被害をもたらしたものに「疫病・飢饉・戦（いくさ）」があります。

しかし、これらは「地震・雷・火事・大山嵐」のグループとは、なぜか別扱いなのです。なぜか？「地震」グループと、「疫病」グループを比較すると、その災害の持続性に大きな違いがあるのです。

「地震」グループの災害は、一過性なのです。もちろん、それによってもたらされた被害はその後何年にもわたって被害者を苦しめますが、その起因となる災害自体は一過性なのです。

それに対して、「疫病」グループは、経年的な被害をもたらします。数年、数十年と続くこともあります。

「疫病」でいえば、奈良時代の天然痘の大流行では、政権の中核にいた藤原四兄弟（武智麻呂・房前・宇合・麻呂）全員が亡くなり、その後

も終息のめどがみえない恐怖に襲われました。

「飢饉」の場合も、異常気象による不作が何年も続き、一村ごと滅亡したこともありました。

「戦」の被害と持続性については言うまでもないでしょう。

両グループの違いは、もう一つあります。「地震」グループでは、その災害に遭った直後から人々は復興に向けて動き出すのに対して、「疫病・飢饉・戦」の場合は、それが始まると、先行きへの不安から、その終息を神に祈ることが多いのです。疫病退散や雨乞い祈願や戦勝祈願などです。

さて、平安中期に菅原道真公が太宰府で薨去されると、疫病や飢饉などの天変地異が相次いだため、大將軍神の信仰をベースとし、菅公Ⅱ天神様を御祭神とする天神信仰が成立しました。大將軍神（金星の精）の惑星周期と、疫病流行の周期がどちらも十二年で一致するとされたことから、大將軍神は疫病を司る神とされていったのです。

また、天神様の眷属（神の使者）は雷神でした。雷神は、早天（日照り）に慈雨をもたらす神でもあるのです。このようにみると、成立期の天神信仰は平安時代の人々の疫病・飢饉

への恐れに応えるために生まれたことが解ります。

その一方では、菅公が当代随一の大学者であったことから「学問の神様」としても崇められたのです。

（文化研究所 高島幸次）

天満宮スカウト活動日誌

令和元年十二月～令和二年七月

◆天満宮スカウト合同行事

十二月

育成会餅つき大会

大阪天満宮・四条畷神社大晦日奉仕

一月

元始祭参列・天満天神えびす祭奉仕

新年参拝及び互礼会

二月

育成会 観梅会

なみはや地区B.P.祭参加

九十八団合同スポーツ大会

三・四・五月

新型コロナウイルス感染拡大防止の

為、両連盟より活動休止の要請あり

各隊・部門指導者より、スカウトに

向けたメッセージを配信

◆ボーイスカウト大阪第九十八団

四・五月

各隊動画配信活動

インターネットにて動画配信を行い

「自宅で行える活動」をスカウトに呼びかける

六月

各隊 入団上進式及び新型コロナウイルス感染対策について講話

ビーバー隊 工作 ハイキング

カブ隊 基礎訓練

ボーイ隊 基礎訓練 火起こし

ベンチャー隊 活動説明

ローバー隊 各隊活動支援

七月

ビーバー隊 竹細工

カブ隊 淀川ハイイク

ボーイ隊 火起こし テント設営講習

ベンチャー隊 年間活動計画

ローバー隊 各隊活動支援

◆ガールスカウト大阪府第八十一団

四・五月

インターネットにて動画配信を行い

「自宅で行える活動」をスカウトに

呼びかける

ステイホーム期間活動 図画工作

六月

各部門 フライアップ式及び新型コロナウィルス感染対策について講話

ブラウニー部門 パトロール編成・

ステイホーム期間活動表彰式

ジュニア部門 作成短歌宮司賞受賞

表彰式 パトロール編成

シニア・レンジャー部門 各隊活動支援

七月

ブラウニー・ジュニア部門 七夕調査

自宅プロ（ロープワーク）

シニア・レンジャー部門 各隊活動支援

シニア・レンジャー部門 各隊活動支援

御田植祭

去る五月十三日、三重県伊賀市北山にある当宮の神饌田において、禰宜以下神職三名、楽人二名にて「御田植祭」並びに「悪疫退散祈願祭」が斎行され、寺井宮司はじめ当宮職員、巫女、そして今年から耕作長となられた西山和頼様をはじめ、地元比々岐神社宮司の内保隆幸様、同下川原地区氏子有志から早乙女を奉仕される女性方を含めて二十名余りの参列を得て斎行されました。

これは当宮の諸祭儀に神饌として供えられるお米を耕作するために、同地区の農家のご協力のもと、水田を借用して稲作を御願ひしているものです。古い記録はないのですが、明治三十二年九月には豊島郡中島に神饌田が設けられていたようです。

その後、昭和になつて島根県の奥出雲に神饌田を借用するようになり、平成五年から同地の氏神である比々岐神社の先代宮司の内保保様からのご縁によつて、耕作を御願ひするようになりました。

初代耕作長は、故岡本正直様で平成十六年まで奉仕され、二代は西山孝司様が令和元年まで奉仕され、今年からは新しく西山和頼様がお引き

受け下さいました。

当日は晴天のもと、神饌田に近い下川原公民館の敷地に祭場を補設して神事を斎行し、その後、西山氏所有の水田に移動して清祓之儀、植え初め之儀を行いました。祭儀が終了すると地元の早乙女と当宮の巫女によつて植付けが奉仕されました。

例年であればこの後に直会が行われて地元の皆様と親しく会食させて頂くのですが、今年は世情を考慮して省略した形式の直会となりました。まもなく九月にもなれば黄金色の稲穂が実り、十月には拔穂祭を斎行する予定です。そしてその新穀は十一月の新嘗祭からの祭儀に供されることとなります。同地区の無事豊作を祈念するばかりです。



第二十三回

あの人この人も

村田庭園社長 村田 晃祐



今回は、村田庭園社長の村田晃祐（むらた・あきよし）さん（三十八）をご紹介します。

村田さんは昭和五十七年六月二十九日のお生まれですが、当宮とのご縁は大学在学中に遡ります。当時、当宮境内のお世話を頂いていた「大坂庭園」に天神祭のアルバイトに来られたのがきっかけとなり、天神祭の作業だけではなく、他の日常の仕事もお手伝いされているうちに、サラーマンではなく、職人の道を目指されるようになったのだそうです。そんなところを大坂庭園の菊川社長に見初められ、大学卒業後、正式に大坂庭園に入社され、菊川社長から庭園業のノウハウを叩き込まれ、庭園業者として成長されたのです。

菊川社長が、年齢を理由に庭園業をお止めになる際、紆余曲折はあったようですが、平成二十八年に「村田庭園」を設立され、当宮の境内管理も引き継がれ今日に至っています。年間を通して境内の植木の剪定などの管理を担当されていますが、ご専門の庭園業だけに止まらず、境内の土木工事など、境内全般を幅広く管理して頂いております。

なかでも、天神祭の各講社の当屋の建設作業をはじめ、大川周辺の準備作業、当日の現場作業などに携わっておられる様子は、皆様のお目に留まっていると思います。

会社を設立された時には、大変ご苦労もあつたようですが、平成二十六年にご結婚後、一女二男をもうけられ、お幸せな家庭を築かれています。

庭園業の世界も、昔とは違い環境が日々変化しています。植木には酷な環境の中での立ち木植木の管理や、都会ならではの自然との共生を常に考えながら、環境の変化に立ち向かわれています。

天神祭支援

自動販売機の設置



当宮の夏大祭であります天神祭は、一千年余の歴史と伝統を有し、その渡御行事は豪華絢爛を極め、特に船渡御の荘厳華麗さは、水都大阪に相応しい火と水の祭典であります。

しかし、その運営をお願いしております、天神祭渡御行事保存協賛会の財務状況は大変厳しく、平成二十一年度より赤字に陥り、昨年度は辛うじて収支が合いましたが、これまでの累積赤字を補うにはほど遠い状況でございます。

さらに、今後はさらなる警備費や船代の高騰などが見込まれ、ますます天神祭が窮地に立たされることは明らかです。

そこで、この度ダイードリンク株式会社のご協力のもと、「天神祭支援自動販売機」を作製し、日々お買い上げいただく飲料代の一部が、天神祭渡御行事保存協賛会への寄付となる仕組みを考案していただきま



した。

筐体は天神祭オリジナルデザインで「大阪締め」の音声流れ、手打ちができ、祭りの雰囲気味わえます。

令和二年二月二十五日に一号機を神社の境内に設置致しました。この自動販売機を通じ、より多くの方々から、未永いご支援を賜ることにより、この伝統ある渡御行事を次代への継承をも目的とし斎行し続け、商都大阪の象徴となる天神祭に致したい所存でございます。

《追記》新たな設置場所を探しております。設置希望の方は、ダイードリンク（株） 清水まで（06-7166-0090）お願い申し上げます。

浪速菅原吟社詠草

雪校 松村暁二撰

令和二年の御宸題は「望」と言う事で詠物体の形で詠みました。

一月課題

御題 望

玄齋 佐村昌哉 大阪市
初志偏求吟客成 學詩懷句道崢嶸
仰瞻山嶺連巖石 獨若浮雲高詠行

《訓読》初志偏に求む吟客と成るを、詩を学び句を懷うも道崢嶸たり。山嶺の岩石を連ぬるを仰瞻し、独り浮雲の若（ごと）くに高詠して行かむ。

《通釈》初志は漢詩人たることを求め、詩を学び句を懷（おも）うが、その道は険しい。岩石が連なる山嶺を見詰め、独り浮雲のように高詠して行こう。※転句は道の困難さの比喩。

二月課題

梅香 山居

美舟 石川繭 高松市
芳梅郁郁滿山家 生暖爐邊雪水茶
窓外新鶯聲緩渡 清幽春信興無涯

《訓読》芳梅郁郁山家に満ち、暖を生ず炉辺雪水の茶。窓外新鶯声緩く渡り、清幽なる春信興涯無し。
《通釈》芳しい梅花は郁郁として山家（自分の家）窓のあたりでは鶯の初音が緩やかに渡っている。この清ら

かな春の便り（訪れ）興味が限り無く続く。

三月課題

疎籬 桃花

未醒 梅津史子 京都市
坐看春庭遍好風 疎籬桃樹一闌紅
嬌聲處處晴村巷 花舞青天落女童

《訓読》坐して春庭を看れば好風遍く、疎籬の桃樹一闌の紅。嬌声処処晴村の巷、花は青天に舞いて女童に落つ。
《通釈》坐りながら庭を見ていると春風が心地よく吹いてくる。疎らに編んだ竹垣の辺りに今を盛りと桃の花が咲いている。可愛い幼児の声がある、良く晴れた村里、花は舞い散って女童に舞い落ちていく。

五月歌題

初夏 漁村

泥舟 杉谷孝博 宮津市
白沙十里嗅潮香 初夏江村島影望
船入鰐旗灣浦港 旋回鳶鳥狙魚長

《訓読》白砂十里潮香を嗅ぐ初夏の江村島影望む。船は旗を翻して湾浦の港に入り、旋回す鳶鳥魚を狙って長し。
《通釈》白沙の浜が長く続き、潮の香がする。初夏の江村（海辺の村）は島の影を望む。漁船が大漁旗を靡かせて入港してきた。空では鳶が輪をかいて、何時までも魚を狙っている。

広報室開設にあたって

広報室長 三宅 隆



この度、当宮に広報室が設置され、私、三宅が室長を拝命しました。

これからは、新聞や雑誌・テレビ・ラジオなどに止まらず、フェイスブック・インスタグラム等のSNSを駆使し、今まで以上に崇敬者・参拝者の皆様に、そしてまだ当宮にお越しになられていない方々にも、当宮や神社全般についてより深く知っていただき、親しんでいただくことを目指し活動してまいります。

私は、長年勤務しておりました広告代理店での経験を活かし、これまでとは少し違った目線で尽力できればと思っております。

また、広報室には、文化研究所の高島幸次先生を顧問に、保坂幸彦氏、後藤康文氏をアドバイザーに迎え、お知恵を拝借したく考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

人事任免

〈新任〉

広報室室長
三宅 隆

広報室

アドバイザー
保坂 幸彦



広報室
アドバイザー
後藤 康文



出仕
中村 允宣



巫女

西畑 爽子



巫女

辻田 久美子



巫女

石田 麻理阿



事務員

今井 美里
巫女より



事務員

長谷川 将大



令和二年四月一日付

〈転任〉

権禰宜 小林 倫宏

愛知 熱田神宮へ

権禰宜 中山 慶太

滋賀 篠津神社へ

令和二年三月三十一日付

〈退任〉

権禰宜 大橋 弘邦

巫女 山口 未来

令和二年三月三十一日付

編集後記

大阪天満宮社報『てんまてんじん』78号をお届けします。これまでの本社報は、毎年一月と七月に発行しておりました。一月号では主に「天満天神えびす祭」や「てんま天神梅まつり」などの告知、七月号では主に「天神祭」や「流鏝馬神事」などの告知を意図した編集でした。

しかし、近年に急激に進んでいきますSNS環境の普及に対応するため、当宮にも広報室を設置し、是までの社報が担っていた告知記事は当宮ホームページに譲ることとし、社報では事後の報告的な役割を担うこととなりました。それに伴い、これまでの原則十六頁を十二頁に変更いたします。

これからも解り易く、興味深い社報を目指しますので、よろしくご愛読賜りますようお願い申し上げます。

大阪天満宮社報

てんまてんじん 第78号

令和2年8月31日印刷

令和2年9月5日発行

発行人 寺井 種治

発行所 大阪天満宮社務所

〒530 0041 大阪市北区天神橋2-1-18

TEL 06-6353-0025

印刷所 木村印刷株式会社